



京丹後に棲む
絶滅危惧種のハヤブサ

ハヤブサ

ニュース No.78

2022. 11. 18

発行 米軍Xバンド レーダー基地反対・京都連絡会

連絡先 〒 602-8347 京都市上京区四番町1 2 1 - 5 大湾 宗則

電話&FAX 075-467-4437

郵便振込座 00950-9-303127 名義 京都連絡会

12・11京丹後現地行動と いらんちゃフェスタ2022への 参加を!

- 集合: 午前8時15分
JR京都駅八条ロアバンティ前
- 主な行程:
正午 基地ゲート前抗議行動
基地周辺のフィールドワーク
2時 いらんちゃフェスタ2022に参加
4時 帰路へ(7時ごろ京都到着予定)
- 費用: 実費を頭割り

* 詳しくは事務局・運営委員まで

基地の固定化・強化をゆるさない

レーダーの本格運用開始から近く8年になります。

昨年5月の「二期工事」の完了を経て、京丹後の米軍 X バンドレーダー基地はますます固定化・強化されています。今月10日から19日にかけては、日米共同統合演習キーンソード23一環としての日米合同訓練が、京丹後・宇川でも実施されました。それは、米軍 X バンドレーダー基地が今日進む日米の戦争体制づくりと深く結びついていることを示しています。

さらに、今年9月に全面施行された土地利用規制法によって、京丹後・宇川の基地周辺は「特別注視区域」に指定されることとなります。基地の監視体制、基地に反対する人々への監視と抑圧が強められていこうとしています。

このような基地の固定化・強化を許さず、東アジアの軍事緊張を拡大する米軍 X バンドレーダー基地の撤去をめざすたたかひの前

進を共に実現していきましょう。

岸田政権の戦争政策、安保強化反対

岸田政権の下で、日米合同軍事演習の拡大、辺野古新基地建設、「南西諸島」での自衛隊の配備増強がおし進められています。同時に、岸田政権は年末に向けて、いわゆる安保関連3文書—国家安全保障戦略、防衛計画大綱、中期防衛力整備計画—の改定に向かおうとしています。

自衛隊による敵基地攻撃能力の保有に向かい、それを前提にした自衛隊の展開体制を構築し、それに必要な兵力・兵器体系を整備しようとするものです。

それは日本の軍事政策の抜本的な強化・転換に他なりません。

また、それと一体で、5年以内の軍事費倍増が打ち出されています。約11兆円、国家予算の約一割であり、到底認めることはできません。岸田政権がおし進める戦争政策、日米安保強化反対の声を今こそ大きくあげるべき時です。

12・11京丹後現地行動の成功を

こうした中できたる12月11日、東アジアの軍事緊張を拡大する米軍 X バンドレーダー基地の撤去を求め、基地ゲート前での抗議行動を行い、当日峰山の丹後文化会館で開催される「いらんちゃフェスタ2022」に参加する一日行動に取り組みます。京都からはバスを手配して丹後に向かいます。

岸田政権の軍拡・改憲、日米安保強化に反対し、京丹後現地仲間、沖縄や韓国・アジアでたたかう人々と連帯し、この12月11日の反基地行動を成功させていきたいと思いません。多くの方の参加を呼びかけます。

PFAS 汚染と京丹後

池田高巖



経ヶ岬 米軍基地前抗議アピール

命にかかわる沖縄での PFAS 汚染

このかん沖縄では米軍基地からの PFAS（有機フッ素化合物）の流出が深刻な問題になっています。泡消火剤などに使われる PFAS（有機フッ素化合物）は、環境中で分解されにくく、蓄積性が高い物質です。とくにその一種である PFOS や PFOA は、肝疾患や肝臓がんなど様々な健康リスクを大きく高め、胎児の出生後の発育への影響も懸念されています。まさに命に係わる問題です。

2020 年には普天間基地から PFAS を含む泡消火剤が大量に漏出し、2021 年 8 月には米軍が PFAS を含む大量の汚染水を下水道に放出するという事態が起きました。しかしそれは問題のごく一部で、沖縄の様々な場所で地下水の汚染、さらには公共水道の汚染が確認されています。沖縄の基地周辺の住民からは、PFAS の血中濃度が全国平均を大きく上回る（最大で 14 倍）という調査結果が発表されました。

この問題は、米軍基地の存在とともに、何十年にもわたって蓄積されてきた問題です。日米安保体制と共に始まった問題とも言えます。しかし、米軍は基地を汚染源だとはいまだ認めず、問題を矮小化しようとしています。日本政府の対応も遅れています。米軍の謝罪、基地への立ち入り調査、全面的な調査、厳格な規制と対策を実現させることが必要です。

全国の自衛隊基地でも PFAS を検出

PFAS の流出事故は、沖縄だけでなく、三沢、

横田、横須賀など各地の米軍基地でも起こっています。同時に、このかん全国の自衛隊基地内でも基準値を超える PFAS が検出されたことが明らかになりました。

今年 7 月、防衛省は、全国 62 箇所の自衛隊基地で 229 槽の消火用水槽（泡消火剤を希釈するために真水をためている）を調査したところ、そのうち 48 箇所・125 槽で、基準値を超える高濃度の PFOS、PFOA が検出されたと発表しました。とくに陸上自衛隊宇治駐屯地では、目標値の 17 万 4000 倍の濃度が検出されました。また、この調査の対象は「過去に PFOS、PFOA を含む泡消火剤を使った可能性がある」と判断した施設であり、実際にはさらに多い可能性があります。

その直後の記者会見で、岸信夫防衛大臣（当時）は、「原因は特定できていない」としたうえで、施設周辺の土壌などの追加調査は「現時点では考えていない」としています。また、PFOS が検出された水槽については「火災が発生しないよう最善を尽くし、万が一の場合は PFOS を含有しない消火剤による初期消火に努める」などとも述べています。これはあまりにも無責任な発言です。

京丹後ではどうか!? 明らかにさせる事が必要

京丹後では、少なくとも過去に自衛隊経ヶ岬分屯基地内に少なくとも過去には PFOS を含む泡消火剤が保管されていたことが明らかになっています。しかし、自衛隊経ヶ岬分屯基地が今回の防衛省の調査の対象になっているかどうかは定かではありません。現在も保管されているのか、処分したとしたらいつどのように処分したのか、現在はどのような消火剤を使っているのかを明らかにすることなどが、周辺の調査を含めて必要です。

米軍 X バンドレーダー基地については、さらに不明です。京丹後市は近畿中部防衛局から X バンドレーダー基地では泡消火剤は使っていないという説明を受けているようですが、米軍・防衛局の説明を鵜呑みにするのではなく、ではどのような消火剤を使っているのかを含め、事態を徹底的にはっきりさせていく必要があります。

11 月例会案内

11 月 24 日（木）午後 6 時 30 分から
ひとまち交流館・京都 第一会議室
テーマ：煽られる「台湾有事論」に抗するために
お話 池田たかねさん

■ 京丹後訪問日程

11 月 23 日（水・休）、12 月 13 日（火）
午前 8 時 30 分、鴨川五条大橋西詰 GS 前集合
*参加される方は事前に連絡をお願いします
（池田： 090-71-8-5508）

那覇市長選結果と日米共同統合演習 (キーン・ソード)に徹底抗議 大湾 宗則

今年行われた9月11日の沖縄県知事選結果は、玉城デニー候補が佐喜真淳候補に64,846票差で圧勝しているのにその約一か月後の10月23日投開票の那覇市長選では、翁長雄治氏(翁長雄志前知事の息子)は那覇副市長で自民・公明推薦の知念覚氏に約1万票の大差で敗北した。投票日10日前に城間那覇市長(「オール沖縄」推薦)が「知念支持」を声明したことが敗北の理由とされている。確かにそれも一理ある。

しかし、沖縄に対する日本政府の度し難い差別主義を見逃してはならない。沖縄県で市制を施しているのは11。那覇市長選の敗北で宮古島市の座喜味市長(「オール沖縄」推薦)以外の10市政が自民・公明の支配下に組み込まれた。この那覇市長選結果は次の衆議院選挙で大きな波乱要因になる。何故なら那覇市は沖縄一区、この一区で「オール沖縄」の統一候補は共産党の赤嶺政賢議員。自民・公明はこの一区を取りに来るはず。二区の社民党・新垣クニオ議員と共に赤嶺議員を守り抜かなければならない。

那覇市長選の敗北から学ぶことは、沖縄各市町村が自民・公明支配下に取り込まれる仕組みは予算配分と執行の関係が大きい。自民党政府の沖縄支配は、国家予算の差別的な配分を通して画策している事実を見抜く必要がある。

政府は、沖縄県予算(振興予算)配分の条件として「安全保障に資する」というタガをはめ、それに従わない沖縄県政に対しては予算(特に自由使用度の高い一括交付金)を減額して見せしめにし、他方「安保に協力」して政府になびく市町村には政府から沖縄県を飛び越して各市町村に補助金を出すという差別的な予算配分で沖縄を分断支配している。

沖縄の困難な現実、投票率の低下にも示されている。今回の那覇市長選も47.05%と50%を割っている。本来沖縄は投票率は高かった。

この投票率の低下には、沖縄の人々が繰り返し「辺野古はいらない」と民意を表明し、国政選挙、知事選、県市町村選挙、そして市民投票、県民投票で示し続けてきたにもかかわらず、日本国民に無視され、その上、政府の差別的で抑圧的な施策を日本国民が黙認しているという事実を知るたびに「政治・選挙」への関心が低くなってきたと理解すべきではないでしょうか。

私たちのごく普通の日常生活が日米安保を前

提にしたものであり、政府による沖縄差別を認めた上にあることは理解できないでしょうか。

繰り返し訴えて来たとおり、沖縄の闘いが困難な責任の一端は、日米安保の過重負担を沖縄に押し付ける日本政府の沖縄差別を黙認している日本国民にもあることを知らねばならない。

「キーン・ソード23」は、敵基地攻撃を 目的にした実践訓練そのもの

防衛省は今回の日米共同統合演習について10/21「武力攻撃かどうかの判別が困難な「グレーゾーン事態」から武力攻撃事態(有事)に至るまでを想定し、日米の共同対処などを訓練する」と発表した。

「キーン・ソード23」は、中国、朝鮮への「敵基地攻撃能力」と装備及び運用能力があることを示すために実戦さながらの訓練として11/10～19日まで全国各地で行われている。とりわけ九州、馬毛島、奄美から沖縄本島、与那国までの沖縄列島が「主戦場」と設定されている。

自衛隊約2万6千人、米軍約1万人、その他英国、豪州、カナダの軍隊も米軍指揮下で行動。

装備と運用は、航空機370機、空母を含む艦艇約30隻。沖縄本島の浦添市の米軍牧港補給地区(キャンプ・キンザー)に日米共同の後方拠点を設け、北大東島の射爆場で日米両軍が精密誘導弾や艦砲射撃、ロケット弾など実射する。この他、105ミリ砲搭載の16式機動戦闘車(MCV)を与那国民間空港に自衛隊機で空輸し、そのまま陸自の与那国駐屯地まで公道を突っ走る。

(沖縄県空港課は9日午後、防衛省統合幕僚監部(統幕)が提出した与那国空港の使用申請を許可した(毎日)。

…この事実が日米安保を容認している沖縄県の優柔不断を示しており、沖縄大衆運動の力で克服すべきである。

中城湾民間港で防衛省がチャーターした民間船で自衛隊車両を陸揚げし演習に使用している。

こうした民間施設の利用について浜田防衛相は「輸送手段が船舶や航空機に限られる先島諸島では(民間施設の利用は)運用上の有用性が高い」「自衛隊が平素から柔軟に利用できるよう、地方自治体などから協力を頂きたい」と。

この防衛相の発言は、「**全ては安全保障に資する**」と言うことであり、沖縄戦の「軍民共生共死」の先陣訓に通じ許せない。平素から民間施設を自衛隊が軍事優先で利用することがどれほど地元の経済と生活を圧迫するかについて政府・防衛相は考えが及ばない。また、米海兵隊

が初めて自衛隊与那国駐屯地に入り訓練するなど日米は安保で一体を深めている。

南西諸島への自衛隊配備と「キーン・ソード 23」に反対する沖縄列島の人々

11/8、中城湾港では 100 人を超える市民が「沖縄を二度と戦場にするな」を訴えて座り込み、警察のごぼう抜きの中で一時騒然としたと琉球新報は伝えている。11/9、沖縄県議会与党(オール沖縄会派)は、沖縄県に対して演習の実施に反対するよう求めた。沖縄平和運動センターは 11/9、那覇市泉崎の県庁前・県民広場で雨天の下、約 130 人が「沖縄を戦場にするな」「日米軍事演習をやめよ」「自衛隊による民間施設の使用反対」の集会を開いた。11/13 には「ノーモア沖縄戦命どう宝の会」が主催した集会に「ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会」の清水早子さん、石垣市議員の内藤英聡さんも参加した。11/15、「奄美の自然と平和を守る軍民会議」の約 30 人が「命どう宝」「戦争絶対反対」のプラカードや旗を掲げて交差点で訴えた。

1972 年 5 月 15 日、沖縄祖国復帰協が沖縄に米軍基地と自衛隊配備付きで「日本復帰」することに反対する決議を上げ、雨中デモを敢行した。しかしその後、長い間、沖縄の闘いから自衛隊と日米安保を公然と批判し撤去を求める声と行動は見聞されなかった。

今回の「キーン・ソード 23」反対を契機に沖縄本島で「平和運動センター」や「命どう宝の会」そして沖縄県議会与党が南西諸島(先島)への自衛隊配備に公然と反対し、日米合同軍事演習中止を求める闘いに立ち上がったことの意味は大きい。先島の人々の意気も揚がる。

「安保関連三文書」改訂…東アジアにおける帝国日本の国家改造宣言を許さない!

反戦・反基地・反安保の統一行動を広げて辺野古新基地建設を阻止し、沖縄闘争の勝利に連帯しよう!

年末に国家安保戦略、防衛大綱、中期防衛力整備計画、「安保関連三文書」が改訂される。その核心は、台湾有事を煽りつつ、対中国・朝鮮に対する軍事的威嚇を強め、第一列島線防衛を掲げて①敵基地攻撃能力の確保と必要な装備

②①を実現するに必要な予算確保(現在防衛費約 5.5 兆円、それを NATO 並みに GDP2% 国家予算の 10% 約 11 兆円。この額は米国、中国に次いで世界第 3 位の国防費) ③防衛費増額予算を支える恒常的な財源確保(増税か赤字国債発行か)が焦点になっている。許してなるものか。

「街なかビラ」の報告と

今後のお知らせ (文責 白井)

10 月の報告

第 141 回 10 月 14 日(金) JR「円町」駅周辺 6 人
人通りは多くないが、声掛けに応じて話をして貰えるが他より多い。暑いほどの日差しの日でした。

<街の声>

- 「自衛隊は抑止力で必要。私たちを守ってくれる」(70代・男) ※宮古島では住民を守るのは自治体の役割で、自衛隊の任務ではない—と云っていることを説明
- 「原発の事が気になっていたが、米軍基地もあるなんて心配やな〜」(高浜出身・女)
- 「経ヶ岬は灯台で有名になるだけでいい。基地はいらない」(高齢・男)

第 142 回 10 月 28 日(金) 京阪「藤ノ森」周辺 4 人
スーパー前は人は少ないが約 8 割は受け取って貰える。

<街の声>

- 高い金を払っているんやから、米軍に日本を守って貰わんとアカン!(60代?・女)
- こんな所に米軍基地があるの?ごくろうさん、家で読ませて貰うわ。戦争は絶対アカン(戦争体験者・女)



11 月の予定

第 143 回 11 月 15 日(火) 百万遍は終了です。
次回の「ハヤブサ 12 月号」で報告します。

第 144 回 11 月 21 日(月) 「東寺」さん 周辺
集合場所: 近鉄「東寺」駅前
時間は 11:00 ~ 12:00 です

みなさんの無理のない参加をお待ちしています。
連絡先: 090 - 5672 - 1597 (白井)